

モニター事業について

1 目的

もみ殻のビニールハウス暖房用燃料としての利用可能性の検証

2 調査の視点

- ① 燃焼(暖房)機器の実用性に関する検証(機器は日常的に使用できるものか)
- ② 燃料の実用性の検証(燃料の確保, 燃料ハンドリングに問題はないか)
- ③ 焼却灰の利用に関する検証(焼却灰の利用は可能か)

3 もみ殻使用機器

ペレット利用

農家A(ペレット温風ボイラー)



【特徴】

- 木質ペレットボイラーの設定を調整
- 5万kcal/h (100-200坪)
- 1m³のサイロからペレットを供給
- 自動灰出し機能により, ドラム缶に排出。
- 木質ペレットの使用実績から2t/月程度を予想
(燃焼温度を600°C~800°Cに調整⇒使用量増)
- 燃料供給, 排気ファン制御により自動温度調整

無加工利用

農家B(チップ・石炭温風ボイラー)



【特徴】

- 燃料送りはキャタピラタイプ
- 10万kcal/h (300-400坪)
- 5m³のサイロからもみ殻を供給
- スクリューコンベア灰出し機能付き
- 燃料供給制御により自動温度調整
- 可溶性ケイ酸の生成に適した構造
- もみ殻はJA新津さつきから供給

【調査期間】 平成27年12月～平成28年3月 (3年間を予定)

【業務内容】 機器設置・メンテナンス, 燃焼調査, 燃料加工・供給, 灰回収の検証

【その他】 焼却灰の農業資材効果の検証 (平成28年度)



焼却灰の効果を検証

